

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームうちこ園

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

片岡 知恵美

評価完了日

平成 19 年 9 月 20 日

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	3873600468		
法人名	医療法人大志会		
事業所名	グループホームうちこ園		
所在地	喜多郡内子町内子3683番地 (電話) 0893-59-2214		
管理者	片岡 知恵美		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市三番町六丁目5 - 1 9 扶桑ビル2階		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成20年1月18日

【情報提供票より】 (平成19年9月20日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成17年3月3日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9.0人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 食費に含む 円
	または1日当たり 円		
(3)利用者の概要 (平成19年9月20日現在)			
利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 75 歳	最高 94 歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>事業所では、利用者が地域の人達と交流することを大切に考えておられ、地域のサロンへ出かけ、体操やお手玉や手芸等を地域の方達と一緒に楽しまれている。又、散歩を嫌う方には、「畑に野菜を採りに行きましょう」と誘い、気持ちよく外に出られるよう工夫されている。</p> <p>利用者一人ひとりの暮らしを大切に考えておられ、毎日、利用者とともに近くのスーパーに食材を買いに行かされている。読書のお好きな方と図書館に出かけられたり、畑の世話等、楽しみごとを採り入れ、一人ひとりの生活のリズム等にも配慮し、支援されている。</p>
---

【質向上への取組状況】

<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>・町主催の「健康と福祉の集い」に参加しパネル、手芸品を展示され、地域の方達に事業所のことをさらに知っていただけるよう取組まれた。</p>
<p><b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>・サービス評価についての勉強会を実施され、全職員で自己評価に取り組みられた。評価の意義のさらなる理解とケアの見直しの良い機会と捉え、事業所の質の向上に向けて取り組まれている。</p>
<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b></p> <p>・事業所では、「運営推進会議は、国からの良い贈り物」と捉えておられ、出席いただいた方々からの意見で、研修会や他施設の見学もされている。</p>
<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</b></p> <p>・年2回、アンケートを実施されている。事業所では、ご家族の意見を大切にされており、意見や要望をいただいた際には、全職員で集まり、話し合われている。家族会は、隣接の介護老人保健施設の家族会との交流会も行われ、ご家族がより意見や要望が出やすいように取り組んでおられる。</p>
<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>・管理者は、1年間、地域の生きがいサロンに参加され、訪れる方達に認知症のことやグループホームのことを理解していただけるようお話をされた。2年目からは1~2人の利用者と共にサロンに参加されている。近くの駅の清掃や花壇作りにも積極的に参加をされている。</p>

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			地域密着型サービスについて、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、など全職員で時間をかけて話し合い、地域の一員として開かれたホームとするために、今までの理念に対する目標を付け加えて具体的な介護の方針を明確にした。		
			(外部評価)		
			事業所の理念に沿って、「地域の一員として協力し、支え合える地域作りに励みます」という目標を掲げ、取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			職員会議、勉強会、毎日のミーティング、にてなどあらゆる機会を通して職員全員で作らげた理念や目標を振り返り確認できるように努めている。またホーム内の目にとまるところに理念や目標を掲示して、日常的に意識できるようにしている。		
			(外部評価)		
			事業所内に理念と目標を掲示されている。又、職員は、日々のケアや申し送りの際にも理念に基づき振り返り、確認をされている。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			家族の面会時、家族会の行事の時や訪問時など、機会あるたびに繰り返し伝えたり話題にしたりしている。また地域の集まりや行事、運営推進会議などにおいてあらゆる機会をとらえ、ホーム便りも活用しながら理解を得るように勤めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 周りに民家はないが、傍の畑やぶどう園で働く農家の人々やホテルで働く近所の人達、また母体である老健施設の通所サービスに通ってくる人などと顔なじみになり挨拶や立ち話をしたり、季節の野菜をもらったり、野菜の苗をもらったりしている。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の祭りや文化祭などは入居者と一緒に参加している。また夏祭りの踊りにも参加している。秋祭りは園庭にて御輿の披露をしてもらったり、地域の保育園や学生等がボランティアとして活動して頂き楽しく交流ができています。 (外部評価) 管理者は、1年間、地域の生きがいサロンに参加され、訪れる方達に認知症のことやグループホームのことを理解していただけるようお話をされた。2年目からは1~2人の利用者と共にサロンに参加されている。近くの駅の清掃や花壇作りにも積極的に参加をされている。		
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 介護研修による実習の受け入れや、地域での生きがいサロンに参加して認知症の啓発に寄与する等。町内のグループホーム連絡会を通して、研修会を開き家族や地域の方々に啓発活動を勧めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) サービス評価についての勉強会を実施し、全職員が意義やねらいや目的などを理解し、全職員で自己評価に取り組むとともに、サービスの質の向上につながるよう外部評価における改善計画を打ちたて目標を持ったサービス改善を図っている。 (外部評価) サービス評価の意義のさらなる理解とケアの見直しの良い機会と捉え、勉強会を実施され、全職員で自己評価に取り組まれた。町主催の「健康と福祉の集い」に参加しパネル、手芸品を展示され、地域の方達に事業所のことをさらに知っていただけるよう取り組まれた。		さらに、今後、事業所でどのように取り組みをすすめていくかということを話し合われたり、外部に表すような機会としても取り組みが期待される。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議において各委員から意見や要望を収集したり、自己評価及び外部評価の内容や評価結果について説明し良い方法や意見などを集約し今後に反映できるように努めている。また町内グループホーム連絡会や家族会及び運営推進会との合同における研修会や交流会を開催するなど、積極的に働きかけている。		
			(外部評価) 事業所では、「運営推進会議は、国からの良い贈り物」と捉えておられ、出席いただいた方々からの意見で、研修会や他施設の見学もされている。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 毎月開催している、町内グループホーム連絡会や2ヶ月に1回開催している運営推進会議、及び内子町行政主催の「健康と福祉の集い」に参加してパネル、手芸作品等の展示をする等常に連絡し連携を図っている。		
			(外部評価) 町内グループホーム連絡会の中心となり、市の担当者の協力を得ながらすすめておられる。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見の必要な対象者はいないが、グループホーム協議会や県社協、研修センターなどの研修会に参加して全職員で勉強会を開いて周知する機会を持っている。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についての勉強会を実施したり、常日頃から虐待や拘束等について自覚できるように折に触れくり返し話し合いを行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) グループホームにおけるサービス提供の具体例、運営規定、重要事項説明書、サービス利用契約書、個人情報使用同意書、医療連携体制、看取りに対する指針、利用者権利擁護ガイドライン、苦情の対応申し立て等について可能な限り丁寧に説明をし、納得が得られるように行っている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者が自ら洗濯できる場面や環境作り心がけるとともに、外出や買い物、散歩などの野外活動時などにさりげなく聞き出したり、日常的な利用者の会話や態度などから気持ちや考えを察してケース検討をし、場合によっては家族にも相談し同意を得ながら希望に添えるように全職員で対応するように努めている。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族へのお便りを毎月手書きで作成し、日常生活の状況について報告している。体調等の変化時は主治医の支持や服薬状況等も含めてその都度説明している。さらに面会時や電話などで様子を報告したり時には自宅に訪問して場所を変えて要望を伺ったりも心がけている。ホーム便りも活用している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族への毎月の手紙や面会時、訪問時や家族会の行事や話し合い等の機会を多く作り、遠慮なく話せる雰囲気作り心がけ些細なことでも意見要望を聞きだすように工夫している。またアンケートを年2回実施し無記名で投函していただき、サービスの質向上に活かすように全職員で話し合い対応している。		(外部評価) 今後、普段の様子をご家族にさらに知っていただけるよう、おやつを写真に残していられることも考えておられた。
			(外部評価) 年2回、アンケートを実施されている。事業所では、ご家族の意見を大切にされており、意見や要望をいただいた際には、全職員で集まり、話し合われている。家族会は、隣接の介護老人保健施設の家族会との交流会も行われ、ご家族がより意見や要望が出やすいように取り組んでおられる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議を毎月開催し職員の意見要望及び職場改善策について自由に意見を述べる機会を作っている。また毎日のミーティングにおいても建設的な意見が出るような雰囲気作りを皆で心がけている。年2.3回個人面談を行い事業所に対する意見や提案事項などについて聞きだす機会を作っている。職員陽だまりの会において飲み会なども実施して飲んだ勢いでいたいことが言える様な雰囲気作りにも心がけている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居者9名に対して職員9名(全員正職員)で対応している為常に日中は4~5名の職員でゆったりと一人ひとりの状況に応じた対応ができる。また管理者は勤務形態に入れていないので夜間や状況に応じた柔軟な対応が確保できている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 入居者との顔なじみの職員による継続的な介護を重視し、やむなく移動や退職などの時は、交代や引継ぎが無理なく自然にできるように十分に配慮し、入居者に紹介しホームのことについて教えてもらえるようお願いしたり、一緒に手伝ってもらえるように誘導しながら、自然に馴染んでもらえるように最善を尽くしている。		
			(外部評価) 職員の移動、退職の際には利用者への影響に配慮して、三ヶ月の引継期間を設けておられる。法人内で異動された場合等、時々訪ねて来られている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) グループホームの県協議会、南予地区協議会、町内連絡会、その他の各協議会団体等の研修に常日頃から参加し研鑽できる環境を作っている。またOJT(職場内育成~組織作り)においても力を入れている。		
			(外部評価) 法人の介護老人保健施設において1週間の新人研修を受け、その後、事業所内でも3ヶ月の研修期間が設けられている。外部研修で得た情報や知識等を職員で共有できるような仕組みが作られている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			町内グループホーム連絡会（5箇所）において毎月情報交換や行政との連携を図ったり、町の健康まつりのイベントに参加しパネルや作品展示を実施したり、運動会や研修会を開催して入居者やその家族及び地域住民や行政ともに交流し、地域ネットワーク作りに寄与している。		
			(外部評価)		
			グループホーム連絡会で実施した運動会では、職員・利用者同士の交流もでき、楽しいひと時となった。さらに、同会で「認知症を地域で支える100万人サポーター」研修を企画され、150名の参加をいただく等、町の他事業所や行政とも協力し合い、実施された。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			まず職員が入居者と一緒に常に楽しく笑顔多く介護ができる事を目標としている。職員との面談や日常的な会話等を通して、ストレスや疲れが蔓延しないように、把握したり声掛けをしている。職員の集いである陽だまりの会で季節毎の交流会親睦会を開催し同一法人の他の職場の人々とも交流し情報、意見交換、気分転換などを図っている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			毎月の職員会議において、職員の意見要望及び職場改善策について協議の場を持ち、また職能評価の実施時にも職員の向上心を図れるように、職場改善策や個人の目標についてなど話し合う場を設けている。職員の資格取得における支援も積極的に行っている。職員就業規則を入社時に周知し、日常的に確認できるように常設している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			事前面談は自宅に伺ったり、ホームに来てもらったり、入院中の場合は病院へもお見舞いに行ったりと数回に分けて行き来し、顔なじみの関係を作りながら本人の困っている事、悩みや欲求すること、生活状況や家族関係などをできるだけ多く把握するように努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談時に家族の介護についての苦楽や意気込み、利用における経緯や考え等々をじっくりと聞き出しながら、介護保険や介護施設等の利用に当たる概要や、ホームの運営理念はもとより、実施するサービスの特徴などもふくめて丁寧に、慎重に説明しお互いに情報を共有することで信頼関係を構築できるように努めている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時欲求訴えの本質をまず見極め、本人や家族の現状を確認し地域の内子町介護保険課やケアマネージャーや包括支援センターなどと連携を図りながら、公正なサービスに繋がられるように最大限の努力をする姿勢で対応している。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ホームから自宅に訪問したり、本人や家族に見学に来てもらったり、何度か出会いのきっかけを作りながら顔馴染みの関係になるとともに、入居に当たっては近所の親しい人達の見送りを受けたり、利用後はかかわりのある方に来てもらうなどの、あらゆる関係作りを勧めている。		
			(外部評価) サービス開始前には、職員がご自宅を訪問されたり、事業所を見学していただく等されている。入居の前に、これまで親しくされていた方達をご自宅に招き、「お別れ会」をされ、今後も続けてお付き合いしていきたいということを伝え、職員も一緒に楽しく過ごされた。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 入居者の不安や焦り痛み、楽しみや好きな事などを理解しながら、生活の中で一緒に感情を共有できる関係を作っていくように努めている。また一方的な介護をするのではなく、助けられたり助けたり相互の関係作りと、季節の行事や畑作業(野菜作り)等を通して普段から教えてもらえる場面作りをしている。		
			(外部評価) 職員は、利用者に野菜の作り方、梅干しの作り方等を教えていただいている。調査訪問時、頂いた柿を干し柿にするため、利用者により作り方を教わっている職員の様子がうかがえた。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月の家族へのお便りや面会時または時には自宅を訪問するなどして、入居者の様子やホームでの日々の生活状況、出来事及び気づいた事などを報告し、情報を共有することでともに支え合う仲間意識をもち、おのずと協力してもらえるような関係作りに努めている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人や家族の思いを敏感に捕らえながら家族会の行事に案内したり、外出や外泊の機会を家族の状況を把握した上で薦めたり、また面会時ゆっくと自室で家族とともに過ごし親睦を深める機会を作るなど、より良い家族との関係作りに心がけている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 元気な頃によく働いた自宅近くの畑に家族とともに出かけたり、先祖代々続いているお墓参りに出かけて近所の人と交流したり、行きつけの美容室、病院、等を継続して利用するなど地域とのつながりが途絶えないように、利用者や家族の要望を聞きながら支援している。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者同士の関係性を全職員で共有し、日によって感情の起伏により関係性が変化することを常に観察し、全入居者が平等に楽しく暮らせるように配慮している。また入居者同士が誘い合って散歩に行ったり、外出したり、部屋前の暖簾の場所のいすを利用して交流を図るなど日常的な活動のきっかけ作りになるように声かけしたり誘導したりして勤めている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) サービス終了後も家族が遊びに来てもらい入居者と交流したり食事に招待したり家族会の行事に来てもらったり地域のボランティアとして交流したり、野菜や苗を差し入れてもらうなど継続したお付き合いが保てている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の活用により、生活そのものをとらえてアセスメントしながら、入居者の意向や思いなどを把握するために、まず楽しく暮らせる工夫は何かを視点にして入居者一人ひとりの笑顔が出る場面作りに努め、日々の活動の状況や表情、笑顔で過しているかなどを観察し汲み取るように努めている。		
			(外部評価) 利用者の思いを表情等からも探り、記録されており、利用者一人ひとりが1日1回は笑顔が見られるよう取り組んでおられる。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面談時に本人や家族及び関係者などに説明して、行き過ぎた事情聴取にならないように十分注意しながら聞き取るようにしている。入居後においても面会に来ていただいた近所の親しい人、子供娘孫などそれぞれの本人に対する思い出話を聞いたりする中で自然に情報が収集できるように工夫している。		
			(外部評価)		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 入居者一人ひとりの時間の過ごし方や些細な行動などもさりげなく観察し、把握するようにしている。また画一的な情報にとらわれないためにも、できる事できない事の日内変動、日差変動を記録したり、センター方式の生活リズム情報シートを活用して把握に努めている。		
			(外部評価)		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望意向を聞き、全職員でモニタリングをすると同時に気づきや課題等について積極的に意見交換、カンファレンスを実施して入居者本位の計画にするため、介護計画に反映させるようにしている。		
			(外部評価) ご本人、ご家族の意向を聞き取り、又、利用者個々の日々の記録に基づき、職員全員で話し合い、介護計画を作成されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間終了前に定期的な介護計画の見直しを実施することはもとより、入居者や家族の要望や欲求が現状のサービス計画とずれが生じることは無いが、全職員で話し合い詳細な情報を集め、ずれや変化が生じれば期間の終了以前に変更して、実情に応じた介護が提供できるように、介護計画を変更している。		
			(外部評価) 3ヶ月に1回、見直しをされている。又、状態の変化時、入所時は1ヶ月以内に見直しをされている。ご本人、ご家族と担当職員で相談しながら見直しをされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 入居者一人ひとりの個別のファイルに日々の生活状況や様子介護内容、できる事できない事の観察事項や考察、課題など詳細に記録し、全職員が把握でき継続した介護ができるように共有している。また個別の記録と介護計画との連動性を持たせるような視点での活用に役立てるように工夫している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入居者や家族などの状況や要望に応じて柔軟な対応ができるように、通院や送迎などの支援。家族との小旅行の計画支援をしたり、また入退院時の早期対応支援などの医療における連携を図るなど、画一的な支援にこだわらないように、その時々で相談協議しながら動めている。		
			(外部評価) 利用者は、地域いきいきサロンに出かけたり、図書館に出かけ本を借りる等、支援されている。7月より学習療法を採り入れ、一部の利用者が楽しみに取り組まれている。事業所では、ご本人がご家族と過ごす時間を大切にされ、積極的に支援されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域での生活を継続するため公民館を今までと同じように利用したり、消防や民生委員、自治会などと普段から交流を持ち意見交換をしたり、図書館などや内子町の町並み商工会などの地域資源が活用できるように連携を図っている。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスを利用する事はまだ至っていないが、入居者本人のケアマネジャーや他の機関のケアマネジャー及び介護保険化の担当者などの意見を聞いたり協議したり、訪問美容サービスを要望に応じて利用するなど、更に機会あるごとにサービスの利用を拡げたいと考えている。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 在宅介護支援センター及び地域包括支援センター等と困難事例や成年後見制度の利用等においては常に活用できるように連携を図っているが、まだその必要性は発生していない。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居者や家族の希望に応じた主治医を選んでもらい町内の主治医の場合は受診介助を支援している。町外の松山等は基本にご家族同行の受診となっている。入所契約時等によくその旨を説明し納得同意を得ている。協力医療機関やかかりつけ主治医の連携を図り場合によっては日中夜間を問わず往診に来て頂くなど、密に連絡報告をし情報を共有している。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 開設者は脳外科医師であるため基本的に常に連携が図れている。突如として興奮したり暴言や性的行動をする場合など困った時に日常的に相談できるため、日々の介護に反映することができる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師を配置しているので常日頃から入居者の状態を注意深く観察し他の介護職員とも連携しながら健康管理に努めている。また医療連携機関の看護職や医師との連携も密に図れる上に、隣接する母体施設の看護師長、施設長(医師)との連携も図れる体制である。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 医療機関の診察に同行する体制を取っているため、治療方針の決定時に本人家族とともに主治医と相談し入院治療が必要な場合は診療方針や入院期間等において相談できる体制にあり、また文書にて情報開示されている。更に入院中は頻回にお見舞に行き、家族や医療機関主治医等との情報の共有に努めている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取り対応マニュアル、医療連携体制に関する指針を説明し同意を得ている。また病状等の状況変化に応じて本人や家族の意向の変化を確認しながら話し合いを深め常に納得と安心を得られるように支援している。場合によっては主治医等にも話し合いに参加していただけるよう仲介したりして最良の方向性を見出す努力をしている。 (外部評価) ご本人、ご家族と重度化や終末期のことについて話し合いがなされている。状態の変化時には、主治医と相談しながらその都度話し合っておられる。又、職員全員で方針を共有されている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の気持ち意向を最大限に尊重し、連携医療機関や主治医及び母体施設の医療関係者等と密に連携を図りながら、急変時に対応できる体制を確認しあい、入居者やその家族が納得し安心して終末期を迎えられるように取り組む体制を取っている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報提供書を活用して情報交換を行い、他の機関に移転することによる心身への影響が最小で済むように本人家族を含めその他の関係者が住み替えによるダメージについても理解しながら連携するようにする。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価)		
			年輩者である入居者には敬語で接する事を基本とし、排泄等の介助などの声掛けはさりげなく傍に行き本人の自尊心を傷つけないように声掛け誘導している。また職員会議や毎日のミーティングの時間を利用して、業務に流されない接遇の方法や入居者の個人情報保護について話し合ったり確認したりしている。		
			(外部評価)		
			職員は、利用者への対応に特に配慮が必要な場面では、その人にだけわかるようにさりげなくかかわっておられた。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価)		
			入居者の関心のある事、好きな事、好きな物、等を把握し常に観察して声掛けしたり、介護者側が決め付けず常に選べる場面作りをするようにしている。一人ひとりの希望や思いを十分に意思表示ができない場合でも表情や反応をすばやく読み取り気持ちを汲むようにしている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)		
			業務の流れに入居者を巻き込むのではなく、入居者の生活リズムに業務を合わせるようにしている。入居者がいっせいに同じ方向に行動するのではなく、図書館や散歩または買い物や野花を摘むなど一人ひとりの状態や希望、したい事など気持ちに合わせて対応している。		
			(外部評価)		
			利用者一人ひとりの暮らしを大切に考えておられ、毎日、利用者とともに近くのスーパーに食材を買いに行かれている。読書のお好きな方と図書館に出かけられたり、畑の世話等、楽しみごと探り入れ、一人ひとりの生活のリズム等にも配慮し、支援されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 入居者一人ひとりの生活習慣に合わせ、洗面後の化粧品の利用や着替え、身だしなみを整えるなど本人主体に見守り、不十分なところはさりげなく介助して、職員の価値観を押し付けることの無いようにしている。また、行きつけの美容室を気軽に利用できるように電話で予約して送迎し馴染みの交流を図るなど美容室との連携も図っている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者と共に季節毎の野菜を育て、一緒に収穫した新鮮な野菜を季節感を触発しながら、下ごしらえや味付けの具合を見てもらったり、それぞれの力量や興味に合わせて何らかの形で参加し、旬の野菜を取り入れ入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをするようにしている。  (外部評価) 利用者と職員で相談しながら食事の支度をされており、畑で獲れた野菜を使ったり、馴染みの郷土食をメニューに採り入れておられる。職員は共に食事されながら、そっと声掛けや介助をされていた。		
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの好みや意向を把握して、本人の希望を再確認しながら時間や場所を見計らって、嗜好物を楽しめるように勧めている。また以前から行きつけの喫茶店でコーヒーを飲んだり、ニッキ飴などの好きな菓子類と一緒に買いに行き、昔を懐かしみながら味わったりしている。		
56		気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄観察表を活用することにより一人ひとりの排泄パターンを理解しており、トイレの声掛けをしたり尿意が無い人には時間を見計らってさりげなく誘導している。またできるだけトイレで気持ちよく排泄できるように尿取りパットを利用したりして、オムツを使わない工夫を心がけている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴時間の希望をその都度確認し、その日の状況や体調、気分や雰囲気を感じながら、タイミングを計って入浴を薦めている。入浴を拒む人に対しては声掛けの工夫や、その人の好むタイミングを押し量って気持ちよく入浴してもらえるように全職員で情報共有しながら行っている。		
			(外部評価) 入浴を嫌がられる方とは、居室でタンスの整理をしながら「どの服が良いですか」等、お話しされ、「お風呂の準備ができましたね」等、雰囲気や言葉かけ等、工夫しながら無理強いすることなく支援されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の適度な活動を取り入れる事で、生活のリズムを調整し一人ひとりの体調や希望、今までの習慣等に応じて休息を勧めている。眠れない日が続く時は睡眠状況をセンター方式にて観察記録し、生活リズムをチームで検討し対策を講じている。また不眠時に足浴して保温を試みたり、一緒に暖かい飲み物でゆっくりと楽しんだりして、本人にとって気持ちいい事をするようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりにあった役割や楽しい事などを、毎日の生活を一緒にする中で気づいたり見つけたりしながら、出番等を作り出す働きかけをしている。節季に応じた馴染みの行事、花や野菜作り、料理、梅干作り、干し柿作りウサギの世話など等あらゆる生活の場面で喜びや楽しみを一緒に感じたり、介護に対する新たな発見にもつながっている。		
			(外部評価) 家事等、得意なことやお好きなことを無理なくできるよう支援されている。ご自分の衣類を洗濯される方もおられる。庭には遊歩道と東屋があり、併設施設の利用者とおしゃべりを楽しまれることもある。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者の興味や希望に合わせて今まで利用していた財布やバックにお金を入れて所持してもらうように、家族の理解と協力を得ている。また化粧品や嗜好品、外出時には好きな飲み物を買うなど自分で選び消費する社会性を保持できるように支援している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			入居者の希望やその日の気分に応じて日常的に散歩、ドライブ、買い物、季節ごとの花見物、などにて四季を感じてもらえるように外出をしたり外食したり、地域の人がよく集まる道の駅(からり)、郵便局、図書館や役場などに出かけて行政や地域との関係作りにもつながるように支援している。		
			(外部評価)		
			事業所では、利用者が地域の人達と交流することを大切に考えておられ、地域のサロンへ出かけ、体操やお手玉や手芸等を地域の方達と一緒に楽しませている。又、散歩を嫌う方には、「畑に野菜を採りに行きましょう」と誘い、気持ちよく外に出られるよう工夫されている。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			今まで行き慣れていた畑、お寺やお墓、温泉施設、生まれた場所の海など等、希望を一人ひとり引き出し家族の理解と協力を得ながら一人ひとりの思いに応えられるように実現に向けて取り組んでいる。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			家族や知人などからの手紙やはがきなどは情報の保護には留意しながらも本人の有する力に応じていつでも思い出せるように、見えやすい場所に置き訪室時に話題にしたり、季節毎の挨拶をはがきで出すような支援をしたり、プライバシーの保護のためコードレスの電話にて自室でゆっくり利用できるように工夫している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			来客時は職員は笑顔で気持ちよく挨拶し、お茶や菓子を提供して遠慮なくご家族と過せるように誘導している。また知人などで問の取りにくい場面や雰囲気察せられる時は、さりげなく仲に入り会話の間を補充し、居心地よく楽しく過せるように心がけている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で身体拘束の具体的な行為について認識し権利擁護についての勉強会にも積極的に参加し意識の向上に努めている。また当ホームにおける拘束はないとの共通認識の下にミーティングなどで常に話し合い、自覚がなく拘束につながる行為はないか全職員で検討するようにしている。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関や各居室及びホール等の窓及び扉の鍵は朝開錠し夕方8時頃まで開錠したままである為、万が一事故等に結びつかないように常に入居者の個別性である欲求や意向を観察し見守りして安全面に配慮しながら、自由に外出できる体制を整えている。職員間では黙視的接近を認識して外に行こうとする人に対して監視的な態度や声掛けにならぬように注意している		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は常に入居者の状況をさりげなく把握し見守るようにしている。居室で過す場合も時間ごとにお茶などを理由に声を掛けたり、リビングや見渡せる場所で記録するなど工夫している。プライバシーに配慮しながら夜間も時間ごとに静かに訪室して安全に睡眠できていることを確認し、とっさの事態にすぐ対応できる体制で把握している。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居者の個性、興味や必要性などに応じて活動を触発する刃物や裁縫道具、大工用具などを利用し所在を確認したり管理したり、その状況に応じた対応に心がけている。また一人ひとりの危険な状況は何であるかについても日々観察検討し全職員が認識するように努めている。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 入居者一人ひとりの状態により今後考えられる事故等の事態を想定し事故防止への対策を検討したり、ヒヤリハットの記録をし今後の対策についても職員間で協議して認識しあうようにしている。また万が一の事故発生時は事故報告書の作成と同時に事故の原因や今後の予防対策について家族にも説明し報告や職員への認識を促していく。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命救急法の講習を全職員が経験し常日頃から事故や緊急事態発生時の対応について職員会議で確認しあったり、各種マニュアルを熟知してあわせて対応できるように周知啓発を図っている。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 母体施設と共に消防署の協力を得て年間2回避難訓練を実施し消火器や避難経路などの点検をしたり、いざという時にあわせて落ち着いて確実に対応できるように、停電時の対応についても全職員確認しあったりしている。また地域の協力体制においては運営推進会議で自治会への協力体制を呼びかけ協議をしている。 (外部評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施されており、地震体験車による訓練も行われた。法人では震度8に対応できる地盤基礎工事が行われている。自治会の防災マップにも記載してもらえる予定となっていた。		今後、運営推進会議を通じて、地域の災害時には避難場所として利用していただけるようお知らせし、又、地元消防団への協力依頼をお願いしていきたいと考えておられた。夜間を想定した訓練の実施も検討されている。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入居者の特徴や生活動作に応じた危険性を予測し、開放的で束縛のない暮らしが提供できるように家族と相談しながら勧めている。入居者の家族は安全だが窮屈な生活は否定的で生き生き楽しく生活できるようにとの意向が強いため、常に意思を確認しながら、状況を説明するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 入居者の生活状況や身体状況等について把握しており、食欲や顔色、排泄や水分の摂取状況、余暇活動への参加の様子など少しの表情の変化や普段との違い、本人の訴えを観察記録し全職員が共有し、必要時は主治医の診察を受けるように早期発見、早期治療に心がけている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬処方箋のコピーを個人記録ファイルに綴り全職員がいつでも薬の内容について把握できるようにしている。また主治医の指示による内服薬の変方があれば、その都度内容や理由についても申し送りにて周知している。指示とおりに服薬できるように本人に手渡し、必要時は介助確認している。状態の変化が現れた時は詳細に記録し、医療連携を図っている。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 個別の排泄状況を日々注意深く観察記録し、自然排便を促すように水分や運動、繊維の多い食べ物を摂るなど工夫している。日常的に開放的で活動的な生活を心がけることで体内環境も整えられ、自然排便につながるよう努めている。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者の自立状況に応じて本人の自尊心を傷つけないように注意しながら、毎食後歯磨きの声掛けをして見守ったり介助したりしている。義歯の洗浄や消毒を定期的に行い口腔内の細菌が呼吸器の感染症に影響を及ぼす事がないように注意しながら努めている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者の食事摂取量、水分摂取量等について毎日観察記録しトータルして一般状態の観察指針のひとつとして、全職員が共有している。献立表や食事(お膳)内容を毎日写真に収めて家族との共有材料にしたり、職員間や母体施設の管理栄養士との栄養評価や今後の課題等の指針にしたりして、専門的なアドバイスを常に受けながら努めている。 (外部評価) 利用者が食事を残された場合、冷蔵や冷凍で保管し、後でも食べられるようにされている。やかんに、麦茶、湯ざまし、煎茶が準備されており、いつでも飲めるようにされていた。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症対応マニュアルを作成し全職員で共有し、日々平常時でも予防対策を実施している。また地域の感染情報を積極的に収集し平常時、注意期、感染症発症モード等の対応について母体施設とも連携を図っている。内子町グループホーム連絡会においても感染症対策指導事項についての情報交換を実施したり、勉強会や研修会に参加し常に新情報による対策を考慮している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価) 調理器具(まな板、や布巾等)は毎日除菌し、台所の水周りや冷蔵庫、食材保管場所などの定期的な清掃をし、環境衛生確認書により全職員で認識しながら、衛生管理をしている。生鮮食品の買い溜めによる鮮度の悪化を防ぐため、毎日買い物に行き生鮮食品の新鮮さを保持する為、購入日を記入して利用している。</p>		
<p>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関先に花や草花のプランターやベンチを置き、入居者が普段から外気や交流をしたり、家族や訪問者がひと息つきながら季節感を味わってもらっている。また地域住民や家族から鉢植えの草花を頂いて玄関に飾ることもあり話題を共有するきっかけ作りになっている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) フロアには天井窓からの採光を取り入れ自然な明るさが保持できている。入居者が自然に遠慮なく料理作りなどの台所作業に入り易い様に、アイランド型キッチンを取り入れているので、気軽に参加してもらっている。また和室に冬は火鉢やコタツを置いているので家庭的な雰囲気があり、昼寝をしたりしている。また季節の草花を玄関、居間や食堂に置き和みが出るように工夫している。</p> <p>(外部評価) 季節の花、ゆず等、季節を感じられるものが飾られてあり、扉には利用者が作った名札が掛けられていた。テラスが2カ所あり、洗濯機が設置されており、ご自分で洗濯される方もある。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室の前に暖簾とベンチの設置により、入居者同士で談を取ったり居心地の良い空間となっている。またベランダやデッキに椅子やテーブルを置き野菜の育ち具合を確認したり、ウサギに餌をやったり、時にはお弁当を拡げて美味しく食べるなどそれぞれの思いや用途に応じた利用ができています。</p>		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)  自宅で使い慣れた椅子机や時計などを持参してもらい、また元気だった頃に自作していた手芸品なども持ち込み、また入居後も継続して家族との写真撮り飾るなど、お互いに親睦が深められ少しでも思い出や馴染みのあるアタッチメントを利用する事により感情の安定を保持している。  (外部評価)  居室には、和室と洋室がある。ご自宅で使用されていた椅子や大きな時計が置かれ、手芸品やひ孫さんから送られたはがきを飾っておられる居室もうかがえた。居室入口にある椅子は収納もできるようになっており、便利に使用されていた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)  排煙窓を利用して自然な換気をしている。温度計を各居室やフロア、浴室などに設置しながら外気温との差が5℃以上にならないように環境整備をしている。トイレは換気扇や消臭剤を併用し臭いがこもらないように適宜換気に努めている。外から入ってきた時の臭いの確認を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)  車椅子対応の洗面台が居室に設置してあるが、入居者の身体機能の状況に合わせて手すり付きの椅子を置いて動作の拡大を図ったり、物干しの高さや浴室の椅子など等を個人の体型や機能に合わせて使い分けながら、一人ひとりの残存能力を最大限に生かして活動ができるように工夫している。		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)  各居室への入り口はそれぞれの暖簾にて区別している。更に居室ドアに本人と一緒に作った名札や自宅で利用していた小物を目印にして、部屋の認識がしやすいようにしている。また生活を共にする中で入居者ごとの状態を把握し変化に応じた対応をするため職員同士検討しながら環境の整備に心がけている。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	(自己評価)  玄関、デッキ、物干し兼ベランダ、中庭の東屋などをフルに活用して散歩や外気浴、ウサギとの交流、外来者との交流、野菜の世話、洗濯等の作業、ティータイム等あらゆる活動に役立っている。自然に恵まれた環境を最大限に活用して楽しいひと時を個人個人で過ごす事ができるように支援している。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を活用し、入居者本位のサービスを追及する努力をしている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	日中の職員は4.5.6人いる為一人ひとり関わる時間が多く取れている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者本位を重視して黙示的接近による見守り、声掛けを行っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声を出して腹のそこから笑ってもらえるように、楽しんでもらえるようにを目標にしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行きたいところを常に選んでもらえるように意向を確認している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者それぞれ主治医及び協力医療機関や母体施設の医師や看護職と連携を図り、密に連絡報告相談の下に実施している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行きつけの美容室に行く、お墓に行く、畑に行く、温泉に行くなどの支援を家族の協力を得ながら勤めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族自身の健康状態について、本人を含めた家族の関係について、家業の状況についてなど相談を受けることが少しずつ増えてきている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域の知り合いの人達、地域の保育園生、小中高生などの訪門が増えてきた。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	①大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	推進委員(民生委員、自治会長、老人クラブ会長、家族関係者等)の方々の御尽力により地域との繋がりや輪が確実に広がっていると感じる。
98	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	前向きで建設的な意見を出し合い、全職員が向上するように日々意識を高めている。入居者に毎日悔いなく楽しく笑顔で過ごしていただくためには、まず職員が楽しく笑顔でいなければならないのではないかと話し合っている。
99	②利用者の2/3くらいが (自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日が笑顔で楽しく生活できるようにまた、入居者の権利擁護について全職員が認識し日々の介護に努めている。
100	②家族等の2/3くらいが (自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	出会いの場の機会からあるいはアンケート調査等から意見要望を謙虚に伺いながら、改善の宝にするように努めている。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

入居者の皆さんは全員地元で農業経験者であることから、畑での野菜作りに自然と興味がわきました、力が入ります。畑で収穫した旬の野菜やスイカ、イモ類など、は皆で感動しながら美味しく食卓にて味わっています。今はあまり行われなくなった季節の行事や、梅干・切干大根作り、農業についてなどを入居者の皆さんに一つひとつ教えていただきながら、人生の大先輩として尊厳を持ち入居者が「介護されている」という意識を持たせないような生活(介護)をする事。普通家庭と同じような日々の生活を心がけ、職員が楽しくなければ入居者も楽しくないので皆が笑顔で楽しみながら一緒に生活できるようにする事。などに力を入れています。